

平成26年度十津川村労働災害防止講習会に参加

大淀労働基準監督署

12月15日、十津川村労働災害防止協議会が主催する「平成26年度 十津川村労働災害防止講習会」に署長と安全衛生担当者が参加しました。

十津川村労働災害防止協議会は、村内における労働災害を防止し、職場における労働者の安全と健康を確保するために設立され、20年以上経過しています。

まず、講習会の開会に当たり、十津川村村長から村民をあげて労働災害を防止する旨の挨拶がなされました。

続いて、安全講習会と題して当署の署長から労働災害の防止について要請をし、安全衛生担当者から労働災害の現況と[リスクアセスメント](#)について説明を行いました。

従来の労働災害防止対策は、発生した労働災害の原因を調査し、同種の災害の再発防止対策を立てるという手法が基本でした。これに対してリスクアセスメントは、職場に潜む危険性や有害性を見つけ出し、労働災害が発生する前に的確な安全衛生対策を行うことを言います。

リスクアセスメントにつきましては、厚生労働省の[職場のあんぜんサイト](#)に小規模事業場を対象とした作業・業種別にリスクアセスメントの実施支援システムが掲載されていますのでご利用ください。



高齢労働者の方々に配慮した職場改善のお願い

ご存じのように我が国は、急速に高齢社会に移行しつつあり、雇用労働者全体のうち60歳以上の高齢労働者の占める割合は約1割となっています。また、平成26年に当署管内で発生した休業4日以上の死傷災害を見ますと、60歳以上の被災者が占める割合は約3割強と高くなっています。そして、被災した場合に若年労働者に比べて怪我の程度が重くなる傾向があります。

高齢者は、豊富な知識と経験を持っていますが、一方では加齢による身体機能の低下が現れ、労働災害発生の要因の一つになっています。

今後、ますます労働者の高齢化が進むことから、高齢労働者の方々が安全・健康に働き、能力が発揮できるよう職場改善への取り組みをお願いいたします。